

主催：東京外国語大学 国際関係研究所 共催：グローバル・ガバナンス学会

東京外国語大学国際関係研究所シンポジウム／グローバル・ガバナンス学会定例研究会

ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の変容 ウクライナ戦争から米・中・露関係の過去と現在を考える

2022年12月10日(土) 13:00～14:30 (90分)
ZOOMウェビナー形式

ウクライナ戦争が長期化するなかで、米国や中国といった大国の行動が国際社会の注目を集めている。

本シンポジウム／定例研究会では気鋭の若手研究者2名が、米露関係、中露関係の過去と現在について、ウクライナ戦争と関連付けながら論じる。

❖報告者：竹本 周平 氏 (国際教養大学)
「冷戦後の米露関係からみたウクライナ危機」

❖報告者：山崎 周 氏 (東洋大学)
「中国のウクライナ戦争への対応と中露関係
：安全保障の逆説 (security paradox) からの考察」

❖司会 兼 討論者：鈴木 義一 氏 (東京外国語大学)

お問合せ先：東京外国語大学 国際関係研究所 事務局 (iir-office@tufs.ac.jp)
(本企画は2022年度 東京外国語大学研究AO研究プロジェクトの支援を受け実施されています)